

柳沢遺跡出土品を知る!

青銅器の使われ方の変化

元々、中国では青銅器を武器として使っていました。しかし、日本に伝えられ国産化されると、祭りの道具として発達します。稲作とともに伝えられ、黄金色の輝きと澄んだ金属の音色が、豊作と繁栄を祈る神と結びついて考えられたのでしょうか。



銅戈（どうか）

銅剣・銅矛・銅戈は柄のつけ方が異なり、剣は短い柄を付けて刀のように、矛は長い柄を付けて槍のように、戈は斜めに柄を付けて大鎌のように用いました。

青銅器は、2300年ほど前の日本にもたらされて間もなく国産化されますが、武器として使われることは少なく、祭器として用いられ、見た目が豪華な大きく薄いものになっていきます。

柳沢遺跡から発見された8本の銅戈のうち、1本は九州型です。ほかは近畿型あるいは大阪湾型とされ、それぞれ北部九州・大阪湾周辺で製作されたと考えられています。



銅戈・銅鐸の埋め方にも決まりがあった?

発掘された銅戈は刃を立てて並べ、その横に銅鐸がひれを立て水平に埋められていました。これは、西日本と共通した埋め方です。



銅鐸（どうたく）

銅鐸は、数百年にわたって作り続けられる間に大型化し、「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」に変化しました。

初期の銅鐸にはひもでつり下げ、振り鳴らした痕跡が残されています。大型化した銅鐸は吊下部が薄く大きく装飾化し、鳴らした痕跡もありません。音を出して神を招く道具から、神の宿る依代になったという考察もあります。

柳沢遺跡から発掘された銅鐸は大型化以前のもので、4個は「外縁付紐式」で、1個は「外縁付紐式または扁平紐式」です。



柳沢遺跡の銅鐸は、聞く銅鐸? 見る銅鐸?

発掘された銅鐸は、吊下部が少し装飾化した「聞く銅鐸」です。ただ、内部からつり下げた振り子は見つかりません。



栗林式土器(くりばやししきどき)



▲シカ絵土器

シカ絵土器が示すことは?

シカの角を稲の生長に見立て、弥生人はシカが豊作をもたらす神と考えていたようです。シカ絵が土器に描かれていたことから、農耕祭祀が根付いていたことがより明確になりました。



市内の栗林区にある栗林遺跡から発掘されたことから名づけられた栗林式土器は、弥生時代中期（およそ2100～1900年前）を代表する土器の一つです。土器の文様・形に特徴があり、赤く塗られた壺・鉢・高坏もあります。長野県では、栗林式土器の時代に水稻耕作を基盤とする弥生文化が確立し、大規模な集落、水利施設が整備された水田、共同墓地などが広がりました。

出土した土器から、柳沢遺跡は栗林式（弥生時代中期後半：約2000年前）から吉田式（弥生時代後期）・箱清水式土器（弥生時代後期後半：約1800年前）の時代まで継続した形跡を見ることができます。



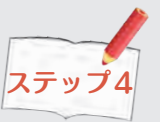
▲高社山の麓にある柳沢遺跡

青銅器が埋められていた場所がなぜ柳沢にあったのか、その理由には五つの説があるという。

一つ目は、「高社山」という誰が見てもすぐ分かるシンボルのような山があるからだ。だから高社山の麓に埋めたという説。

二つ目は、長野盆地に住む人たちと飯山盆地に住む人たちの大きな生活圏の境界だからという説。

三つ目は、長野盆地の最北端だからという説。



柳沢遺跡再発見新聞

調べたことを記事にしてみよう！

子どもも記者が作った新聞を紹介します！

柳沢遺跡のある理由〜シンボルのような高社山〜

四つ目は、北信州と日本海側との境界だからという説。

五つ目は、西日本および弥生人から見たとき、北信濃が交流を行う北の端だからという説。

多くの説があり、詳しくはまだ分かっていないが、五つの説を見ると、「境界」という言葉が多く出てくる。このことから、この場所が極めて重要であったと考えられる。

日本初 銅戈「九州型」



「近畿型」同時に発見

柳沢遺跡で出土した青銅器の一つに銅戈がある。柳沢遺跡で発見された銅戈は、日本で初めて、「九州型」・「近畿型」の二つが同じ場所で発見された。銅戈とは、日本では祭りの時に使われたとみられている剣のことだ。

銅鐸 たくさん叩き内側すり減る

柳沢遺跡で発見された銅鐸は、農耕（田畑を耕して農作物を作ること）に関する祭りに使われていたと考えられている。

また、銅鐸はひもでつるした痕跡があり、叩いて使用していたと考えられる。銅鐸は叩いていた内側の部分と、ひもでつるしていた部分が激しくすり減っていたようだ。



銅鐸本体がすり減らないように「内面とつたい」というものを付け工夫して使用していたようである。内面とつたいとは、銅鐸の内側にふくらみを付け、銅鐸本体がすり減らないようにするものだ。

それでもすり減っていたということは、ものすごい回数を叩いていたと考えられる。

九州型と近畿型の銅戈の違いとして、「九州型」は剣の模様の溝が閉じているが、「近畿型」は溝が開いている。この柳沢遺跡は、日本にとっても大きな発見をもたらすことになった。

私たち倭小學校6年生は、地元にある柳沢遺跡がこんなにも素晴らしい遺跡だと知り、とても驚いた。



倭小學校6年生が作成した「柳沢遺跡再発見新聞」。全8面で作られており、完全版については、中野市役所広報フェイスブックからご覧いただけます。
中野市役所広報フェイスブック <https://www.facebook.com/shinsyu.nakano.koho>

